

2018年 12月度 売上速報

■ 百貨店事業

阪急阪神百貨店	売上高前年比(%)
阪急本店	107.3
阪神梅田本店	92.0
支店計	102.7
全店計	104.0

※ 阪神梅田本店が建て替え工事で、売場面積が前年比約2割減となっており、それを除くと、売上高前年比は、105.6%となります。

○ 全店の概況

- ・ 婦人衣料(109%)は、気温の低下とともにコート(115%)がようやく動き出す。また、ご褒美需要を中心に動きがよい婦人靴(114%)や、クリスマスギフトでハンドバッグ(112%)などがよく動くなど、婦人ファッション中心に好調。
- ・ 阪神梅田本店はI期棟オープン後、面積が2割減も想定を上回るペースで推移。ハンワールド等の注目売場が集客に寄与。
- ・ 支店は12店舗中7店舗が前年を上回る。博多阪急(104%)は広域からの集客力が高く、充実した海外ブランドのジュエリーを中心に好調継続。また、今秋オープンのライフスタイル提案型売場が集客に寄与した西宮阪急(105%)が、好調に推移。

○ 阪急本店の概況 ※売上高が25ヶ月連続で前年実績を上回る。

- ・ クリスマスや謝恩会などモチベーションの反応がよいドレス(129%)が好調。コート(126%)もようやく動き出し、婦人服(115%)が好調。また、クリスマスギフトで人気のハンドバッグ(117%)や、ご褒美需要でブーツ(121%)、スニーカー(149%)の動きがよい婦人靴(113%)が好調で、服飾雑貨(110%)も好調に推移するなど、婦人ファッション(110%)全体を押し上げた。
- ・ 阪急メンズ大阪は、ファッション感度の高いお客様の購買意欲が継続的に高く、海外ブランドを中心に好調を維持。
- ・ インバウンドは、高額品のジュエリー・時計を中心に好調に推移し、売上高前年比10%増と4か月ぶりに前年実績を上回る。
- ・ 100万円以上の高額品(104%)は、国内・インバウンドともに活況で、海外ブランドの大口需要もあり、ジュエリーや時計がよく動いた。

※過去1年間の売上高推移

前年比(%)

	2017年度				2018年度									
	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	
阪急本店	106.5	107.3	108.4	109.6	110.8	107.8	104.5	100.0	108.7	100.6	106.8	100.0	107.3	
阪神梅田本店	100.4	98.5	98.5	99.4	106.8	83.4	115.1	87.6	96.1	84.0	93.2	88.8	92.0	
支店計	98.4	96.1	97.7	100.3	98.5	93.3	98.3	89.5	107.0	105.7	106.6	101.5	102.7	
全社計	103.0	102.1	103.4	105.1	106.0	99.5	103.6	94.8	106.6	99.8	105.0	99.2	104.0	
既存店計※	104.9	104.3	105.3	107.0	108.0	102.3	106.4	98.0						

※ 既存店計は、2017年7月末に閉店した堺 北花田阪急を除く

※阪神梅田本店除く全店計

108.0	102.4	106.7	100.6	105.6
				速報値

■ 食品事業

イズミヤ	売上高前年比(%)	阪急オアシス	売上高前年比(%)
全社計	95.4	全社計	95.6

★数値は速報値のため、確報値とは誤差が生じることがあります。

<本件に関するお問合せ先>

エイチ・ツー・オー リテイリング株式会社 広報室 TEL:06-6367-3181